

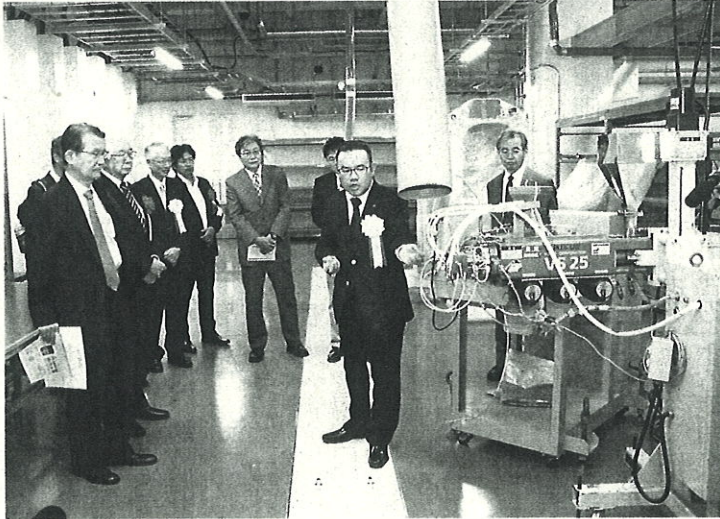
環境新技術世界へ

プラスチックなど環境に優しい機能性材料や最先端の加工技術の開発を目指す山形大グリーンマテリアル成形加工研究センターが米沢市の同大工学部に開所し、記念式典が18日、現地で行われた。この分野に特化した施設は国内唯一で、新技術を世界に発信するとともに地域企業の製品開発を支援する。

に開所し、記念式典が18日、現地で行われた。この分野に特化した施設は国内唯一で、新技術を世界に発信するとともに地域企業の製品開発を支援する。

米沢 山形大グリーンマテリアル研究センター開所

機能性材料、加工技術を開発



山形大グリーンマテリアル成形加工研究センターの設備について説明を受ける関係者
＝米沢市・同大工学部

鉄より強く、無害で土に返るプラスチックなど新たな材料の開発と、省エネや二酸化炭素(CO₂)排出抑制につながるナノレベルの加工技術確立で世界トップを狙う。自動車部品をはじめ

め、電子・情報機器、医療分野への活用を想定しており、企業への技術移転や技術者育成にも取り組む。研究は既に、同大学院理工学研究科の教授らが2011年にグループを発足

させ、施設を持たない「バーチャル研究所」として進めてきた。現在、トヨタ自動車など20社以上と共同研究を進めている。センター長には同研究科の伊藤浩志教授が就き、十数人の研究者が携わる。

施設は4階建てで延べ床面積は約2900平方メートル。1階に研究・加工設備を配置。2階は企業との共同研究を行う「オープンラボ」で、3、4階に研究室が入った。整備事業費は8億1270万円。

記念式典で小山清人学長、飯塚博工学部長は「ものづくりを支える世界的な拠点として地域の産業に貢献したい」と強調。関係者がセンター前でテープカットをし、開所を祝った。

引き続き、同市の伝国の杜で記念講演会を開催。上杉家17代当主の上杉邦憲宇宙航空研究開発機構名誉教授を来賓に迎え、世界トップレベルの研究者が将来の技術を開発した。

2015年6月19日(金)

山形新聞より